

2008  
6  
June

弘前大学

# 学園だより

題字：遠藤正彦 学長

VOL.159



「捕食」 制作 教育学部学生 藤井 花恵

I	巻頭言	2
	弘前大学長 <b>遠藤正彦</b>	
II	特集 各学部長挨拶	4
	さあ、始めよう	
	人文学部長 <b>石堂哲也</b>	
	教育の専門家を目指して —30年前の思い出—	
	教育学部長 <b>昆 正博</b>	
	新生生の皆さんへ	
	医学部長 <b>佐藤 敬</b>	
	ようこそ医学部保健学科へ	
	医学部保健学科長 <b>對馬 均</b>	
	新生生に望むこと	
	理工学部 <b>稲村隆夫</b>	
	大学で磨きたい3つの力	
	農学生命科学部長 <b>高橋秀直</b>	
	特集 「 <b>新入生・在校生の声</b> 」	10
	人文学部 教育学部	
	医学部医学科 医学部保健学科	
	理工学部 農学生命科学部	
III	海外だより	22
	二度、中国に行って	
	農学生命科学部 <b>片方陽太郎</b>	
IV	新任教員自己紹介	24
V	けいじばんコーナー	26
VI	編集後記	26

特集

ようこそ弘前大学へ





# I 巻頭言



弘前大学長 遠藤正彦

新入生のみなさん、弘前大学入学おめでとう。

今年は桜の開花が早かったので、入学早々お花見があり、同級生とのコミュニケーションも良く進んで、理解しあえる仲間ができ、いまではすっかり勉学も軌道に乗っていることでしょう。さあ、これからどのように大学時代を過ごし、何を掴み、どう未来に向かって羽ばたくかを考えましょう。

## 地方大学・弘前大学のブランド力

私は皆さんの入学式の告示の中で、次のようなことを述べました。「弘前大学は地方大学であるが、大学が地方にあるだけであって、中央にある大学と遜色はありません」と。

弘前大学は、中央から見て地方都市・弘前市にあるのは事実です。といって大学そのものが決してローカル化しているわけではありません。皆さんのまわりの仲間を見ればわかる通り、本年入学者の半数以上が、青森県外遠く南は沖縄、北は北海道から本学に入学してきました。本学は依然として全国区の大学です。皆さんすべてが、弘前大学に何らかの魅力を感じて、弘前大学を受験し入学してきました。その魅力こそが、弘前大学のブランド力だと思います。

大学のブランド力は、大学の歴史、規模、教育成果、研究成果、学生の活躍等のトータルの表われです。本学の卒業生の活躍も、本学のブランド力を高めています。そうです。その卒業生の活躍こそが、本学卒業後の皆さんの将来の姿を予想させるものかも知れません。

## 弘前大学のブランドを背負った本学出身者

本年4月30日、理工学部知能機械工学科創立10周年記念の祝賀会がありました。そこで知能機械工学科の学部卒業生やこの系列の大学院修士課程及び博士課程の修了生で、今社会で活躍している人々が、次々と立って近況を述べました。ある人は言いました。「自分は弘前大卒業だが、自分が一生懸命やっていると、他の一流大学卒業生に負けているとは決して思わない。弘前大学を卒業して良かったとつくづく思う」。またある人は言いました。「学生時代は、そこそこにやっていたつもりだったが、企業の研究所に就職してみると、弘前大学で、すばらしい教育を受けたんだなと実感しました」。またある人は、「ヒロダイと言うと関東から南は広島大学で、関東から北は弘前大学です。ヒロダイと言えばすべて

新入生の皆さん 入学おめでとう。  
皆さんは弘前大学ブランドの一員です。

弘前大学と言われるようにしよう」。またある人は、「自分は大学入試における偏差値が低いから本学に入学しましたが、卒業してみると大学時代にすいぶんと附加価値がついたと実感しました。」と言いました。

私は彼らの話を聞きながら、こみあげてくる感動を覚えました。地方大学から中央の大企業及びその系列の企業に就職し、中央の大学の出身者に対して、誇りと自信をもって互角に活躍している姿に感動しました。また、中小企業に就職して、リーダーとして生き生きと活躍している姿に感動しました。そして皆がすばらしい教員達に出会い、すばらしい指導を受けたことに誇りをもっている様に感動しました。そこには、地方大学としての引け目や、またかつては「ヒロマエ大学」と揶揄されたことへのコンプレックス等は、みじんもないことを知り感動しました。むしろ堂々と弘前大学のブランドを背負って輝いていました。他の多くの弘前大学出身者も、全く同様に弘前大学ブランドを背負って活躍していると確信しました。

### 弘前大学のブランドを高めてきたもの

こういった卒業生が弘前大学のブランド力を高めています。弘前大学は、その原点の一つ青森県師範学校創設の明治9年から数えて、今年で実に132年にもなります。そして、旧制のパンカラ高等学校である旧制弘前高等学校と、太平洋戦争後果敢にも生き残った青森医学専門学校と共に、新制弘前大学が立ち上がり、その発足・昭和24年から数えて、来年満60年にもなります。我国の国公立の大学の中で、歴史としては何も不足はないでしょう。当然のことながら、これまで数多くの卒業生が、我母校の誇りを持って我国の発展のために力を尽くしてきました。新制大学になってからの卒業生も数々の業績をあげ、そして新制大学草創期の方々の中には早や現役の引退者もおります。

### 弘前大学の草創期

しかし、ここまで来るのには大変だったと思います。ブランドなどというところではありませんでした。人文学部・昭和47年卒の岡井真さんは、本学にはその課程もコースもないことから、卒業後自ら志を立て最難関の公認会計士の資格をとり、現在は公認会計士として活躍し、その他本学の経営協議会委員のかたわら、本学人文学部同窓会長もなさっています。人文学部卒業のあるひとは、本学卒業後独学で勉強し、司法試験に合格されました。弘前大学東京同窓会総会が毎年開催されますが、その席上、本学の知名度の低い草創期のころ東京に就職された方々の、ご苦労話を伺うことができます。このような方々の中には、今では一部上場の会社の社長や役員を務めておられる方も多数おられます。また、弘前大学東京同窓会として、本学学生のインターンシップ、社内見学、就職等のお世話をさせていただいております。皆さんは弘前大学という母校を愛し、後輩に思いを寄せております。

### ブランドに輝く先輩・本学出身者

本学出身者は今では、国会議員、市町村長は勿論、各界各方面で弘前大学ブランドを背に活躍しています。地元青森県及び各市町村では、多数の本学卒業生が活躍しています。県教育界では田村充治教育長は本学の出身です。その他県内外の高校・中学・小学・幼稚園・特別支援学校の校長、園長初め教諭が活躍しています。医療界は勿論ですが、数年前東北地区の6つの県医師会長のうち、青森県、秋田県、山形県が同時に本学出身者で占められたことがあります。

本学の全学部に本学出身の教員が活躍しております。京都大学佐藤矩行教授は本学出身の動物学者で、現在日本動物学会長です。この京都大の教授を初め、東京大学、北海道大学、東北大学の旧帝大や、北は旭川医科大学から南は琉球大学に至る全国の国公立大

学に本学出身の教授がおられます。特に医学部出身の医学系教授は、全国に現在までに100名以上輩出されています。アメリカの大学教授も複数名おります。北見工業大学厚谷都夫元学長は本学文理学部の出身、本学前学長吉田豊前学長は本学出身初の学長です。

外国でもWHOを初め世界の各機関等で本学出身者が活躍しています。本学出身の幾人もの方が、国際会議の会頭になっています。数年前ジャマイカ国に国際協力JICA関係の協定で訪問したとき、日本企業の現地法人代表から、私は弘前大学農学部出身ですと、自己紹介をうけた時、驚くと共に嬉しくなりました。また、このJICAの関係者から、弘前大学出身の女性ドクターがブラジルで活躍している他、アメリカ、東南アジアで医師や企業人が活躍しているとの報告を受けました。すばらしいことと思っています。本学出身の小説家もいます。アーティストもいます。ミュージシャンもいます。写真家もいます。

### 弘前大学ブランド力を高めるのは、皆さん方です

上述のことは、皆さんの入学したこの弘前大学の卒業生の活躍ぶりの一端を示すものですが、お名前をいちいちあげませんでした。皆さんは、皆さんの入学した本学の卒業生の力、本学のブランド力の一端が理解できたと思います。弘前大学は単なる地方大学ではない、本学が更にブランド力を高めるのは、皆さんひとりひとりのこれからの勉学や活躍にかかっています。そして自分だって前述された卒業生のようにやればやれると、目標が見えてきたのではありませんか。

さあ、これからの学生生活を有意義に過し、そのことが皆さんの明るい将来への力となるように、そして本学のブランド力向上に資するようになることを切に希望します。





## Ⅱ 特集 各学部長挨拶

### さあ、始めよう



人文学部長 石堂哲也

春の到来がもどかしかったかのよう  
に、今年は4月から一斉に花が咲き始  
め一足飛びに新緑の季節をむかえまし  
た。一年生の皆さん、弘前大学人文学  
部へようこそ。心より歓迎いたします。

皆さんへの歓迎の言葉の代わりに、  
この四年間をどのように使うか、ヒント  
になればと思いいくつかのエピソード  
を紹介します。それぞれ学生時代に  
いささか大それた挑戦をしたという逸  
話です。

まず、さる国語学の大家の伝説。

この人は若くして、日本語の起源を  
突きとめる研究をしようと思立ちまし  
た。重要な手がかりは何と言っても  
『万葉集』です。しかしなにかあるごと  
に、言葉のひとつひとつについてその  
都度、誰のどの歌に出てくる言葉か本  
を開いて調べているようでは仕事にな  
るまいと考えると、彼は何をしたかとい  
うと、『万葉集』の全ての歌を、学生の  
時に暗記してしまった、とか。解説、  
注釈をたよりに全部を読むだけでも大  
変ですが、こういうことをする人が世  
の中にはいる。

次に、私たちと同世代のある英文学  
者の例。

大学生になったらあれを読もう、こ

れも読みたいと思っていた。早速ある  
作家の代表作を手に入れて読みはじめ  
たが、高校を終わったばかりの英語力  
ではとにかくむずかしい。辞書をひき  
ひき頑張ってみたが1ページ進むのに  
1時間も2時間もかかる。これでは英  
文学研究にならないではないか。途方  
にくれて彼はある先生の研究室をおそ  
るおそる訪問し、こんな具合なのです  
が、と相談してみたら、「そのまま続  
けたまえ」とまことに素っ気ない返事  
であった。その一言に発奮した彼は2  
年かかってその作家の20数冊に及ぶ  
著作集を読み切った、と。

ある友人の場合。

彼は、いわゆる「体育会系」で時間  
に余裕がない。しかし理系、文系を問わ  
ず、古今東西に渡る広い知識と思考法  
を身に付けたいと考えました。ギリ  
シャ語も数学もなしでプラトンからア  
インシュタインまで、つまりまあ、こ  
んな世界だとおおまかな知識をかき集  
めようとした彼は卒業までに岩波新書  
をすべて読もうと思いたちました。今  
と違って岩波新書の刊行点数は多くあ  
りませんでした。また他社はほとんど  
新書を出していませんでした。あまり  
気の利いた読書法ではありませんが、  
さすがに「体育会系」でそのエネルギー  
には脱帽しました。ともあれ読み終え  
た本とこれから読もうとしている本が  
ずらりと並んだ本棚は迫力があつた  
し、彼はとにかく何でもよく知ってい  
ました。この人は今、ある会社の重役  
になっています。

この3月に卒業した学生の経験。

長年教員生活をしているとさまざま  
な学生に出会いますが、彼女には驚き  
ました。随分元気のいい学生が入って  
来たと思ったらそのうちに留学して姿  
が見えなくなり、しかもなかなか帰っ  
て来ない。弘前大学と姉妹校関係を結  
んでいるアジア、ヨーロッパ、アメリ  
カの大学の留学プログラムに順次応募  
して4年間これらの大学で過ごし、そ

の間一度も日本に帰って来なかった。  
これ以上帰って来ないと卒業できなく  
なるというぎりぎりまで帰って来て卒業  
し、又海外に出て行きました。この人  
の場合は何か重大な決心をしてそれに  
挑戦したという風では全くなく、世界  
のあちこちを見て歩くのが楽しくして仕  
方がないという様子でした。こういう  
人が出てくるようになったことに感銘  
を受けました。

蛇足：一応、念のため、ささやかな  
がら、私の思い出。

英米文学を専攻して間もない3年生  
の時のこと。比較言語学を専門とされ  
る先生が、その先生の恩師に「一つの  
言語の勉強を始めたら1万ページ読み  
なさい。その時はその言語を読めるよ  
うになったと自信を持ってよろしい」  
と言われたという話をしてくれたこと  
があります。これは随分励みになりま  
した。たやすいことではありませんが、  
気が遠くなるほど無茶な目標ではな  
い。なんとか頑張って卒業までに30  
冊ほどの洋書をやっつけました。ペン  
ギン・ブックやモダン・ライブラリで  
平均300頁前後ですから、目標の少  
し手前で卒業ということになりました。  
しかし大学院に入って間もなく所  
定の1万頁に辿り着きました。

人に教えられた事を覚えていくのが  
勉強であるとするれば、あまり楽しいも  
のではないでしょう。しかし、自分で  
目標を立てそれに挑戦しさまざまな工  
夫をしていくと大学生活は充実したも  
のとなっていきます。

皆さんの先輩の人文学部卒業生には  
司法試験に合格した人がいます。オリ  
ンピック選手もいます。一部上場企業  
の社長もいます。

大学生としての毎日の生活に漸く慣  
れてきたころであろうと思います。ま  
た、最初の緊張が薄れてくる頃でもあ  
りますが、このあたりで、4年間で何  
に挑戦するか、一つ計画を立ててみて  
はどうでしょう。



## 教育の専門家を目指して



教育学部長 昆 正博

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの新たな出発に当たり、心にとめておいてほしいことをいくつか述べてみます。

最初に、「教育学部」と「教育学研究科」の概要を復習してみましょう。ここでは、専門的な知識・技能を習得して、社会や学校等さまざまな場で、学習者を支援することのできる専門家：①児童生徒の学習と健康を支援する学校教員（学校教育教員養成課程・養護教諭養成課程）と②児童生徒の学校外での学習及び成人の学習・文化・スポーツ活動を支援する教育専門職員（生涯教育課程）の養成を行っています。

そこでは、学生自身の人間形成のための科目、「教育プロフェッショナル」として身につけるべき知識・技能を習得するための科目、人間をより理解するための科目と、これらを生きた知識・技能とするための1年次から4年次までの多様な実習が配置されています。

カリキュラムの中で、教師・教育専門職員像を実現するために、「教育臨床」・「メンタルヘルス」・「成人（保護者）理解」が重視されています。

さらなる教育の高度専門職を目指す

のが「教育学研究科（修士課程）」です。「学校教育専攻」、「教科教育専攻」および「養護教育専攻」があり、「学校教育専攻」の「臨床心理学分野」は財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種大学院に指定されており、高度な心理臨床能力を持つ人材の養成を目指します。

これらの教育・研究を、附属学校園と附属センター群が支えています。皆さんは、このような環境の中で、自分の専門を学ぶとともに、他の専門の興味ある科目も学ぶことができます。また、努力次第では複数の免許取得も可能です。

教育関係の就職は大都市圏ではだいぶよくなっていますが、東北、北海道等の地方では年々厳しくなっています。また、教育を取りまく世の中の状況も厳しいものとなっています。教育に関する様々な問題も指摘されています。したがって、教育のこれからを担う皆さんへの期待は大きなものがあります。「教育学部」と「教育学研究科」では、上記のようなカリキュラム等を常に見直しながら、学習者に最新の教育を提供していく努力を重ねています。特に、地域の教育機関と連携した各種実習の充実や新たな教育方法の開発研究は、皆さんの積極的な参加を求めるものです。担当教員とよく相談しながら、良い学習を進めてください。

次に、教育に関連する世の中の情報にも積極的に目を向けてください。例えば、最近 PISA（ピザ）調査のことが話題になりました。

国立教育政策研究所の小倉康氏や渡辺良氏によると、PISA（ピザ）調査は、OECD（経済協力開発機構）が2000年から3年ごとに実施している15歳段階の生徒を調査対象とした国際学力調査「生徒の学習到達度に関する調査」であり、その特徴は、各教科の学習内

容の理解度を測るのが目的ではなく、各教科内容の習得にとどまらず、将来直面するかもしれないさまざまな状況での総合的な問題の解決にそれらが活用できるようになっているかを測ることを目的としているものです。PISA調査で測定する主な学力の分野には、読解リテラシー（読解力）、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3つがあります。「リテラシー」という言葉を使うのは、社会の構成員としての一人ひとりが身につけるべき学力を意図しているからで、一昔前は、「読み・書き・そろばん」がリテラシーと考えられていました。

この調査では、日本の生徒の成績そのものは国際的に上位にあるが、興味や関心などの面で大きな課題を抱えているといわれています。なぜこれが課題なのかというと、「興味・関心」は生涯にわたって学習者であり続け、直面する新たな課題に前向きに取り組み、答えを自分なりに見つけ、人生を切り開いていくための原動力となるものだからです。

各種の実習を通して身近な教育の問題を考えるとともに、このような広く大きな問題にも目を向けてほしいと思います。

皆さんが、人間の成長を支援する良き専門家となることを期待しています。





## ようこそ医学部保健学科へ



医学部保健学科長 對馬 均

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの入学を心から歓迎いたします。厳しい受験勉強を経て、晴れて獲得した大学生活かと思いますが、“初心忘るべからず”と申しますように、入学にあたって目標とした事柄を忘れることなく、これからの学生生活を充実させていただきたいと思っております。

医学部保健学科に入学された皆さんは、それぞれ“看護師になりたいとか、理学療法士になりたい……”というように、明確な目標を持って入学されたことと思います。このように、入学時に卒業後の方向性がほぼ決まっているのが保健学科の特徴と言えるかも知れません。こうしたことから、保健学科の教育にはつぎのような特徴があります。

●くさび型カリキュラム：医学部保健学科では、1年次前期から専門科目の導入的学習が開始される“くさび型カリキュラム”が各専攻で採用されています。これは、後に紹介する国家試験受験に必要な専門科目の学修を効果的に進めるという意図によ

るものです。平成17年度からは教育内容を精選したカリキュラム改正が実施され、それまで過密だった時間割が大幅に改善され、時間的にゆとりをもって学習できるようになりました。ぜひこの時間を有効に使って、自律的に勉学を進めていただきたいと思っております。

●臨地・臨床実習：保健学科のカリキュラムの最大の特徴は、医療現場で指導者のもとで実際に専門技術の実習を長期間にわたって行う「臨地実習」や「臨床実習」という必修科目があることです。この実習は段階的に行われ、時期については専攻によって異なりますが、本格的な実習は3年次から開始されます。

●国家試験：卒業要件を満たして卒業を迎えると、それぞれの専門職の国家試験を受験する資格が得られます。国家試験は各専門職ごとに、毎年2月下旬から3月上旬にかけて行われています。これまでの全専攻の平均合格率は一昨年が93.8%、昨年在96.2%、そして今年は97.6%と着実にアップしてきています。今年は看護師・助産師・理学療法士・作業療法士の国家試験で100%を達成という、うれしい結果を得ることができました。4年後、皆さんもぜひこれに続いていただければと思います。

高度化・専門分化した現代医療においては、医師のイコール・パートナーとしての医療専門職の役割が重要視され、それぞれの分野で卓越した専門知識や能力を備えているスペシャリストが求められています。しかし、スペシャリストは狭い範囲の知識や技術を深く追求するがゆえに、ややもすると視野

も狭くなりがちです。そこで、専門以外の幅広い分野にわたる見識を備えるための努力も必要となります。その意味において、大学における教養教育の果たす役割は重要です。現代社会において求められる人材とは、一つの方針での専門的能力や知識をマスターし、しかも幅広い分野にわたる知識と視野をもっている人材、すなわちスペシャリストとジェネラリスト両面を兼ね備えている人材であるとされています。幅広い見識を備えた人格は一朝一夕にできあがるものではありません。21世紀教育はもちろんのこと、課外活動や友人との語らいを通して、多くの違った考えや生き方に接する中で培われるものでしょう。こうした点をよく理解して、自分を磨いていただきたいと思っております。

さて、青春時代まった中の皆さんがこの4年間で描く未来予想図はどんなものになるのでしょうか？



## 新入生に望むこと



理工学部 稲村隆夫

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんはどのような思いで入学されたのでしょうか。大学に入ったら、こんな勉強をしたい、このような研究をしたいと考えて入ってこられた学生さん。自分の理想を求めて頑張ってください。しかし、高度な勉強、研究をするためには、それを支える基礎知識が必要です。研究をするにしても、行き当たりばったりでは立派な研究はできません。まず基礎的なところから積み上げていく必要があります。大学に入って1、2年はこの基礎知識を得るためのカリキュラムが用意されています。基礎教育ばかりでつまらないと感じるかもしれません。しかし、これは4年生、大学院生になって高度な研究をするための準備段階であると思って少し我慢し、基礎知識をしっかりと身につけてください。

一方、高校生の時に受験勉強で苦しめられた分、大学に入ったら思いっきり遊びたい、授業は適当に受けて、クラブ活動やアルバイトに打ち込みたい、と思っている新入生はいないでしょうか。しかし、大学はそのような甘いところではありません。大学は社会に出るための準備をするところです。社会に貢献するために必要な知識・技能を得、社会に出て生活するために

必要な人間形成をするところです。卒業の時に、「社会に出る準備はできた」と思えるように、有意義な大学生活を送れるように心掛けてください。

さて、皆さんは大学院のことをご存じでしょうか。皆さんは大学の学部に入学されました。理工学部の場合4年で卒業ですが、その先に大学院理工学研究科があります。大学院は2つに分かれており、2年間の博士前期課程(旧修士課程)と3年間の博士後期課程(旧博士課程)があります。博士前期課程を修了すると修士の学位が、博士後期課程を修了すると博士の学位が授与されます。最近のゆとり教育などにより高校までに学ぶべき内容が減少し、また科学技術の進展で大学で学ぶべき内容が急激に増えています。一方で、企業は卒業生の質の保証を要求しています。大きな企業では、修士の学位を持っているのが当たり前になっています。また、修士修了生の方が、研究開発部門に採用される可能性も高くなります。もし企業に入って製品の研究開発をしたい、あるいは企業、国立の研究所、大学等で高度な研究開発をしたいと考えておられるなら、是非大学院に進むことを念頭において勉学に励んでください。現在、理工学部では卒業生の約4割は大学院に進学しています。

ところで、皆さんは「二宮忠八」という人物をご存じでしょうか。飛行機といえばライト兄弟といわれるほどライト兄弟は有名ですが、ライト兄弟よりも早く現在の飛行機の原型を考案したのが二宮忠八です。忠八は凧作りの名人で、小さい頃から空へのあこがれが強かったようです。忠八は23歳の時、カラスの滑空する姿を見て飛行機の原型を思いついたとあります。忠八以前の飛行機発明家たちは、鳥に似せて羽ばたく飛行機を念頭に置いていたために、その完成には失敗し続けていました。しかし、忠八はカラスの滑空する姿から、固定翼に推進動力を付けた現在の飛行機の原型を思いついたので、直ちに模型飛行機の製作に着手し、ゴム動力で飛ぶ「カラス型飛行器」を作

り上げ、1891年見事にその飛行に成功しました。ライト兄弟がフライヤー号による世界初の有人飛行に成功した、1903年のなんと12年前です。忠八はその後有人飛行機の開発に乗り出しますが、開発成功には至りませんでした。なぜ、忠八が12年の間にカラス型飛行器から有人飛行機の完成まで至らなかったのか。その理由としていくつか挙げられていますが、その一つに、基礎的な流体力学の知識がなかったからと言われていています。皆さんご存じのように、飛行機は翼の揚力で浮き上がります。揚力は飛行速度の2乗で大きくなります。一方、飛行機には抗力も働き、抗力も飛行速度の2乗で大きくなります。人が乗るためには大きな揚力を得る必要があり、そのためには飛行速度を大きくする必要があります。一方、飛行速度が大きくなると抗力も大きくなり、それを上回る推進力のあるエンジンを載せる必要があります。現在のように高性能なエンジンがあれば直ぐ問題は解決するのですが、当時は10馬力程度のエンジンしかありませんでした。このエンジンで有人飛行するためには、揚力が大きく、かつ抗力の小さな飛行機を開発する必要があったのです。そのために、ライト兄弟は何回も風洞実験を繰り返して最終的にフライヤー号を完成させたのです。しかし、忠八には不幸にも風洞実験の知識がありませんでした。忠八は、1909年の新聞で、ライト兄弟が1時間以上も飛行できる飛行機を開発したことを知り愕然とし、その後一切の飛行機開発を断念したといえます。

歴史を振り返るとき、「もし」は禁句になっていますが、敢えて言うと、もし忠八が風洞実験の知識を持っていたら、もし忠八が当時西欧で一般的になっていた流体力学の知識を持っていたら、二宮忠八の名がライト兄弟に取って代わっていたかも知れません。この「もし」を現実のものに変えるのは皆さんの努力ですし、そのタネはいろいろなところに転がっています。



## 大学で磨きたい3つの力



農学生命科学部長 高橋秀直

大学生活で磨いてほしい力の第1は、聞き取る力です。社会や企業が皆さんに望む能力の第1がコミュニケーション力であることは、あらゆる調査が示しています。コミュニケーションができなければ、なににもできません。コミュニケーション力のある人が最も評価され、自分をおのずから好ましい環境に置くことができます。

コミュニケーション力といっても、聴く、読む、書くと様々ですが、日常的には相手の話を聞き取れることが土台です。“聞き取る力”を大学で養える場が講義です。講義では“メモ”を取る訓練をしてください。“ノートを取る”と言えば、皆さんは教師が黒板に書いたことを写すことしかしません。卒業後、黒板に書いて話をしてくれる人も場もありません。頼りになるのは正確に聞く力です。教師の話を聴きながらメモる、メモリながらどれが話の要点かを考える、要点と思われるメモを○で囲むなどの印と自分の理解をメモしておく、——この訓練をすると話(要点)を聞き取れる力が付きます。黒板丸写しの“ノート”より遙かに役立ちます。

第2は、“つまらない講義”を活かす力です。皆さんは大抵の講義を“つまらない”と思うでしょう。本当につまらないのか、つまらないと決めてかかっているのかのどちらかでしょうが、“つまらない”と言えば自分が高みに立ったかのような気分にはなれません。しかし、“つまらない講義”に“つまらない”と思いながら出ていても、自分が高まる訳ではありません。時間のムダというものです。それなら出席しなければいいと思うのですが、他にやることがないから、行くところがないから、と答える学生も少なくありません。

私の学生時代を今にして思えば、本当に“つまらない講義”もなくはありませんでしたが例外的で、大抵は“つまらない”と決めつけていたと思います。社会人になってからは、“つまるか、つまらないか”は自分次第と気づきました。自分の受容枠が狭ければ、関係ない、つまらない、になります。関係なくても自分の枠を拡げる機会と捉えれば、面白くなります。なにかひとつでも面白そうなことはないか、と聴くだけでも、面白いことを拾えます。

社会に出れば最も多くなる会議。大抵は“つまらない会議”のように見えますが、それとて聴き方次第。ひとつでも知らないことはないかとメモを取っているうちに問題の核心が見えてきて、有益な発言ができ、自分にとって面白い会議になることも少なくありません。

人生を左右するのは、結局はいまいる場・時間を有効に使えるかどうかです。その力を鍛える場、それが“つまらない講義”です。

第3は、“出席を評価してほしい”とか、“カンニングしている者がいて不公平だ”などと考えない力です。“出席を評価してほしい”という要求とこ

れに対する大学の対応の問題は、一昨年の本誌(2006年7月)に書きましたが、企業人でいえば、休まず出勤ただけで評価してほしい、といっているようなものです。

カンニングという不正行為を指弾するのは結構ですが、不公平と思う必要はありません。中身なしの単位になんの意味があるでしょう。それこそ自分は自分、私は学んで単位を獲得したでよいではありませんか。低いレベルに合わせて要求するようなことに超然としていられる力を磨いてください。

専門を学びながら、これら3つの力を磨けばあなたの大学生活は将来につながるものになります。



# II 特集 「新入生・在校生の声」



人間文化課程 1年  
田村 れいこ

弘前大学に入学して、1ヶ月が経ちました。私はこの1ヶ月で少し成長したような気がします。

弘前大学合格が決まり、私は下宿することになりました。今まで家事を見事に怠っていた私は、掃除や洗濯にと

## <掃除と洗濯と友達>

ても苦戦しました。2週間ほど前までキレイだった私の部屋は、気づいたら足の踏み場も無いほどに散らかっていました。普通に生活していたはずなのにとても不思議な気持ちでいっぱいになりました。あまりのショックに自分の部屋の汚さを携帯に収めました。今でもアルバムに残しています。

そんなある日、大学で仲良くなった友達が突然部屋に遊びに来ました。快く部屋に入れた私に向かって彼女は「きたないっ!」と言い放ちました。同感でした。続けて彼女は「部屋の乱れは心の乱れだ」というようなことを言いま

た。後にこの言葉は私の座右の銘になりました。彼女は私と一緒に私の部屋を掃除してくれました。その後3日も経たないうちにかなり散らかりましたが、彼女の言葉を思い出し、マメに掃除するようになりました。今では「まあキレイじゃん」と誉められるほどです。

幸いにも料理が好きな私は毎日お弁当を作っています。もちろん彼女の分も作ります。彼女は美味しくない寒天ゼリーをいつも持ってきます。

私は大学生になって、掃除と洗濯と友達の大切さを知りました。これからたくさんの人との出会いを大切に、一緒に部屋を掃除してくれる友達を作ろうと思います。



現代社会課程 1年  
藤田 歩美

弘前大学に入学してから約3週間が経ちました。最近ようやく学校にも慣れ始めてきましたが、まだまだわからないことだらけで気が抜けません。今までの高校生活とは違い、何もかも自ら進んで動くことや、それに対する責

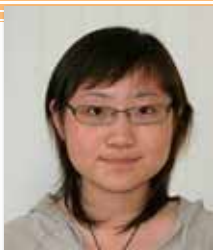
## <憧れの大学生生活>

任がすべて自分にかかってくるということを実感するようになりました。

大学では常に新しいことだらけで毎日飽きることはありません。新しく出来た友達のおかげで休み時間に退屈することもなく、楽しい時間を過ごしています。入学当初は友達が出来るか不安でしたが、今となってはそのような不安もなくなりました。これから先の大学生活でも大事にしたい友達が出来て良かったと思います。大学ではさまざまな地域・年代の人と知り合う機会が多く、人見知りの私は気さくに話しかけることが出来ませんでした。その

度に、このままではいけないとも思っていました。大学で学ぶのは単に学業だけではありません。たくさんの人と関わる中で学ぶこともあると思います。そうした際に、自分自身を表現できる力を身につけておく必要があると感じました。だから、これからの大学生活でも積極的に多くの人と関わっていこうと思います。

私にとって大学での4年間は自分自身への投資期間だと思っています。さまざまなことを経験し、視野を広げて将来の夢の実現の為に努力することを忘れずに大学生活を充実させていきたいです。



経済経営課程 1年  
李 菲

私は日本に来て半年になります。来日後、日本留学試験と弘前大学の試験を受けて、弘前大学に入学することができました。

初めての外国での一人暮らしはとて

## <弘前の桜と大学生活>

るので、出かけるときは地図を持っていくのですが、それでもよく道に迷います。スーパーはどこか、市役所はどこか、どうやって外国人の手続きを行うのか、ぜんぜんわかりませんでした。でも、先生と友達が親切で、たくさん手伝ってくれて、心から感謝しています。

4月、弘前の桜が咲いて、びっくりしました。初めて桜を見て、なんてきれいな花かと感動しました。わたしの大学生活は桜とともに始まって、幸せです。桜の下で、自分の未来を考えて、お願いをしました。

大学生活は毎日自由で、充実しています。自分が好きな科目を選び、単位

を取るためだけでなく、自分の興味のために一生懸命勉強しています。忙しいですが、楽しいです。そして、高校と違って大人のように知識を吸収できます。外国語を勉強するために、多言語コミュニケーションの日本語とフランス語を選びました。日本語とは別に、日本語でフランス語を学ぶことにさっそく苦戦しています。だから、新しい知識を吸収するために、日本語が障害にならないように、今からもっともっと日本語を勉強します。

4年後、私は桜とともに卒業して、自分の努力によって、自分の手によって、夢を実現させて、人生を変えたいと思っています。





人間文化課程 2年  
入川 望美

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

そろそろ大学の授業にも慣れ、「大学生って意外と暇？」と思っている人もいないのではないのでしょうか。他学部に比べ人文学部は制度上1年生の間は授業

### 在校生から

#### <充実した大学生生活を>

があまりありません。午前中だけ授業、あるいは午後だけ授業という日があったり。一人暮らしになり高校時代と比べたら通学時間はほとんどないに等しい。自由な時間がいっぱいです。「何をすればいいんだ!？」と最初は戸惑いました。

でも大学生はやれることもたくさんあるんです。例えば授業の予習・復習をする、掃除や洗濯などの家事をする、サークルや部活動に入る、アルバイトをする、自動車の免許を取る、資格を取る、友達と遊ぶ、などなど。私の場合は、部活に入ったことでいい時間の

使い方ができた気がします。他学部の友達ができたり、合宿で他大学の人と知り合えたり。いろいろな出会いがあるので、部活やサークルに入るのはおすすめです。

何をやるにしても、大学生は自主性や積極性を求められることが多いです。どう時間割を組むか、どのゼミに入るか、さらに卒業後はどうするか。選択に迷った時は、友達や先輩、大学の先生にも積極的に相談してみてください。これだけたくさんの人がいる大学で、周りの人を利用しない手はありません。いろいろなことにチャレンジして、充実した大学生活を送ってください。



現代社会課程 4年  
千葉 祐希

今年で弘前の桜を見るのも4年目になりますが、今でも3年前に高校の先輩に案内してもらって、お城に行った入学式のことを思い出します。ネクタイを結ぶのにも時間がかかったし、真新しいスーツが自分自身をすごく新

### 在校生から

#### <4年目の桜>

鮮な気持ちにさせてくれました。3年たった今、就職活動も佳境に入り、同じようにスーツを着て、1年後の自分がどうありたいのか考えながら、大きな岐路に立っている心境でみる桜もあの時とは違うように自分の目には映りました。

大学生生活は、選択の連続です。時間割、アルバイト、部活動、サークル、遊ぶ時間など、自分が何をしたいのか、選択を迫られる場面が多々あります。手を抜こうと思えば、いくらでも手を抜くことができるし、やろうと思えば、いくらでも探求することができる環境だと思っています。その中で、卒業してか

らの自分自身を描きながら、今、何をすべきか考えるのも選択する上で材料になってくると思います。就職活動をする上で、必ずと言っていいほどに聞かれたことがあります。それは、『あなたは大学生活の中で、あなた自身が一番頑張った事は何かですか。』という質問です。この質問に対しての答えは人それぞれですし無数にあると思いますが、これに胸を張ってこれだけとはいうものがあれば、充実した大学生活だったと言えるのではないのでしょうか。

弘前で大学生活の中で、いろんなことを見て、感じて、挑戦して、友達たくさん作って、充実した楽しい学生生活を送ってほしいと思います。



経済経営課程 2年  
小崎 裕喜

弘前大学に入学してから約1年。この1年は、大学生活に慣れるまで様々な困難があった1年間で、特に勉強面で苦労しました。

高校までとは違い、大学生活において、時間割は自分で決めます。自分で

### 在校生から

#### <慣れるって難しいけど必要なんですよね>

決めるものだから最初は不安がありました。「取りたい授業がカブっているんじゃないの?」「履修制限ってなんなんだあー」というような不安感が僕にはあって、そうした不安から初めはあまり授業が取れず、後悔したことがあったし、いざ授業を受けてみると自由席なのでどこに座ればいいのか迷ったり、席が混んでいたり辛いなあと思ったこともありました。しかし、こんなじゃ駄目だと思い、この辛い現実から逃げないように努力した結果、今では席を座るにも慣れ、講義をちゃんと受けられるようになり自信がついてきま

した。履修登録でも自分の興味に合った科目を取ったり、いろんな分野の科目をとって自分の見聞を広げたりと自分の思うような時間割が作れて、その時間割をもとに生活出来て、毎日が充実しています。やはり、最初が肝心で、悩んだり苦労したりしますが、慣れてくると心にも余裕ができて、充実した生活が送れるのだと再認識しました。

これからも様々な困難に出くわすかもしれませんが、しかしそんな時こそ心に余裕が必要で、その為にも慣れるということが大切になっていくと僕は思います。





学校教育教員養成課程  
小学校教育専攻 1年

長内 紗希

弘前大学へ入学して早くも一ヶ月が経ちました。入学当初抱いていた新生活への不安も今ではなくなり、大学生になったという自覚もできました。大学に来てまず感じたことはもう大人として扱われているということです。

<大学に入学して>

校則など何でも決められていた高校時代からあまり時がたっていないのに、大人として扱われることに最初は戸惑いがありました。今では将来のために大人として扱われるということの大切さ、そして自由には責任が伴うということも知りました。

授業も今までは生徒として聞いているだけでしたが、専門科目では教師としての目線から考えることを教えられ、もう子どもではいられないことを実感させられました。

授業時間も授業内容も高校までとは全然違い、日々新しい知識を教えても

らえることは非常に楽しいです。特に専門科目は将来教職に就いた時、すぐにでも役立ちそうなことばかりで、とても有益なものであると感じています。

そして何より刺激を受けたことは様々な人に出会ったことです。皆、それぞれに尊敬できる場所があり、高い目標を掲げて、この大学に入学した人達です。

これからの四年間の大学生活を通して、互いに切磋琢磨して、たくさんの方のことを学んでいきたいと思っています。



学校教育教員養成課程  
中学校教育専攻 1年

木村 佳織

弘前大学に入学して約1ヶ月が経ちました。最初は「友達出来るか」や「授業についていけるか」などと不安でいっぱいでしたが、ようやく大学生活にも慣れてきて、毎日楽しく充実した日々を送っています。

入学して、まず一番初めに思ったことは、色々なことが高校生活とは違うということです。一つ目は、授業の長さで行い方です。高校での授業は50分授業だったので、大学の90分授業というものには正直戸惑いました。授業の行い方も、高校の時のように板書

<大学生活が始まって>

をただ写すだけでは通用せず、自分でノートを作ってまとめていかなければならない、ということが始めはとても大変でした。今も少々戸惑いながらですが、自分なりに工夫などをして、ついていけるよう頑張っています。

二つ目は、全てにおいて自己責任が問われるということです。「自分のことは自分で」、「いつまでも誰かが助けてくれる訳ではない」、「いつまでも高校生のままではいけない」、と自分に言い聞かせて、頑張っていきたいと思います。

三つ目は、人との出会いがたくさんあるということです。私は弘前出身なので、入学するまでは特に感じることはなかったのですが、いざ入学すると、高校と比べて、さまざまな所から人が集まってきていて、他の県の話や、人それぞれの考え方に日々感心するばかりです。とくに、方言の話がとてもお

もしろく、新しい発見などがあって、とても楽しいです。この大学での4年間を通して、もっとたくさんの人と出会って、自分を成長させていきたいと思っています。

学習においては、私は将来英語を生かした職業に就きたいと考えています。同じ夢を持った仲間と共に学習していくということは、とても楽しく、またその仲間はお互いにお互いを高め合っていくことのできる存在であると思うので、その仲間達と共にこれからも共に頑張っていきたいです。

私の今の目標は、何事も貪欲に取り組む！です。英語能力を高めるために、TOEICにも挑戦して、いつか留学もしたいと考えています。そのために、一日一日も無駄にせず、夢に向かって努力していきたいです。仲間みんな、先生方、先輩方、これからもどうぞよろしくお祈りします！



生涯教育課程  
芸術文化専攻 1年

鎌田 菜央美

<与えられたもの>

私たちが高校生から大学生となって与えられたものの中で一番大きなものは時間だ。自分の大学生活を良くするも悪くするも、この時間の使い方に左右されると思う。幸運にも弘前は他の地方大学がある都市に比べると、芸術に触れる機会を多く得ることができる街だ。県レベルで

考えても、最近では十和田市に現代美術館ができるなど、芸術に関する動きが顕著である。このように与えられた芸術に触れるチャンスを逃すことのないよう情報収集を徹底し、大学生ならではの時間を有効利用して実のある大学生活を作っていきたい。



生涯教育課程  
健康生活専攻 1年

成田 悠介

<四年間の目標を明確に>

私たちのクラスの大半が教員免許の取得をめざして日々頑張っています。そして先日、私たちは保健体育講座に仲間入りしました。私がこれから卒業までの四年間、これだけはこころがけたいのは目標を明確にすることです。実際に大学生活が始まり具体的な生活の

様子がわかってきました。そこで今までの漠然とした目標からより細かい具体的な目標を掲げ、これからの四年間を有意義なものにしていきたいと思っています。保健体育講座の先生方、先輩方にご指導を受けることが多いのでまだまだ新米ですがご指導よろしくお祈りします。



### <これからの4年間に向けて>

養護教諭養成課程 1年  
佐藤 菜摘

大学に入学して約一ヶ月が経ちました。最初は緊張してうまく話せなかった友達とも仲良くなれ、不安だらけだった大学生活も先輩方や、先生方のアドバイスのおかげで楽しむ余裕ができてきました。

大学の授業は高校と違い、自分の好きなことを学ぶので90分という長い時間でもあつという間に思えます。専門の授業を同じ課程の友達と一緒に受けていくうちに、みんな同じ目標を持つ仲間なんだ、自分はずつとあこがれていた養護教諭になるためのスタートラインにいるんだ、と実感します。

大学に入学して一番最初に言われたと思うことは、自分の理想の養護教諭をイメージして四年間で近づけることができるよということでした。私

にとつての理想の養護教諭は中学のときの養護教諭でした。荒れている生徒に冷静に話しかけ、先生方の悩みを聞きアドバイスをしている…保健室は生徒のためのものだと思っていた自分には衝撃的なものでした。自分も生徒だけでなく先生に信頼されるような養護教諭になりたい、と思いました。

この四年間で、同じ課程の友達と刺激しあいながら、今の自分に足りないものを学び理想に近づけるよう頑張りたいと思います。



### <人間的に成長したい>

学校教育教員養成課程  
障害児教育専攻 1年  
伊藤 絵美

弘前大学で、自分が関心を持っている分野を学ぶことが出来るのがとてもうれしいです。4月から大きく環境が変わり不安でいっぱいでしたが、入学して一ヶ月がたち今では不安よりこれからの4年間に対する期待の方が大

きくなっています。友達もでき授業も学ぶことが多くとても充実した毎日を送ることが出来ています。高校とは違い自分の学びたいことの授業を受けることが出来るということが大学の魅力だと思います。90分授業は長くてつらいと思っていたけど少しずつ慣れてきて、専門教科の授業は本当にあつという間に終わってしまいます。

私は高校の時部活中心の生活を送っていて、ボランティア活動をする機会がありませんでした。だからこれからは勉強だけでなく、ボランティア活動

やサークル活動にも積極的に参加したいです。その中でコミュニケーション能力や考える力を養って、人間的に成長したいです。先日授業で特別支援学校を訪問したとき、障害を持ったことに対して様々な誤解があったことに気がつきました。本を読んだり、話を聞くだけではわからないことはまだまだあると思います。もっと、彼女らのことを知って感じていきたいです。これから四年間でつらいこともうれしいこともたくさんあると思うけど今の気持ちや目標を忘れずにがんばりたいです。



### <これから>

教育学部生涯教育課程  
地域生活専攻 1年  
山下 晃平

自分は「運命」という何かに流されるようにしてここへ来た。だから、今まで思い描いていた道を通すことはできない気がする。正直、この教育学部の地域生活専攻はいったい何者なのかと

いうのも全くつかめていない。よってこれから自分が具体的に何をしたいのかというのは自分自身に問いかけてもその場、その時で答えが変わる。良く言えば自分の中に今、無限の可能性が広がっている。完全に青年期の心情だ。挑戦、そして『Let it be』。自分自身のやりたいことがわからない今、この言葉を大切にしたい。それが自分自身のこれからです。

さて、原稿依頼には『弘前大学の新たなメンバーになったことについて』と書かれているので、弘前大学の学生とし

てのこれからについて。弘前にきて約一か月たった今、これまでにないような様々な人と出会った。その人たちはこれからの自分に大きな影響を与えるだろうし、逆に自分が影響を与えるのかもわからない。望み通りにここへ来た人や自分と同じように思いもよらずに来た人やただなんとなく来た人もいるだろう。だが何かの縁で同じ大学にいるのだから自分はそういった縁を大切にしていきたい。



### <新たな気持ちで>

教育学研究科  
養護教育専攻 1年  
岩橋 明子

冬の寒さも嘘のように、暖かい日が続くようになりました。私は九州出身ではありますが、弘前大学で四年間勉強して、雪の生活にも慣れ、冬の雪景色もごく当たり前のものとなりました。弘前は自然に囲まれ、少し外に出る

だけで四季を感じる美しい景色を見ることができると、とても気に入っています。特に春の桜はことのほか美しく、弘前公園をはじめ弘大構内や街のいたるところに桜が花をつけ、なんとなく胸弾み、心癒されています。

私は学部生としての四年間は、たくさんの経験をしたくて、学業以外のことにも精神的に取り組まれました。他学部や他学科の友だちもたくさんで、学校外でも様々な方と知り合い、様々な視点で考えをもつことができるようになったことは、自分の財産であると

感じています。今年、大学院への入学を果たし、私にとって新たな生活が始まりました。同期に現職の先生方がいらっしゃることもあり、今までよりも養護教諭という仕事を身近に感じるようになってきました。大学院へは、自らの強い意志で学ぶために進学したからこそ、今までよりも学業や研究に力を入れていきたいと思っています。これまでの経験も生かしつつ、子どもたちの心身の成長を支援できる養護教諭を目指します



### <掃除と洗濯と友達>

医学科 1年  
岩下 充宏

私の第1番目の印象は、1回生は自由時間が多い、ということです。最近では1・2回生から専門教育も入り、なかなかしんどいと聞いていたのですが、とりあえず1回生はモラトリアムとも考えられます。そこで私は医学部バレー部とワンダーフォーゲル部と2つのクラ

ブに入りました。さらに講義の合間を縫って三内丸山遺跡や龍飛崎など青森県の旧跡や自然を個人的に味わいに行っています。第2番目の印象は、弘前大学は総合大学ならではの活気があるということです。クラブ・サークルだけでなく総代・生協・学祭などで学生が主導的に活動していて、「活発な大学」との印象を受けます。そのため、他学部の様々な方と面識を広げ、自分の世界を広げることができます。弘前の街の印象も申しますと、私は京都出身

でここに来るまでは東北に関するイメージがなかったのですが、道が細く伝統的な家屋も散見され雄大な岩木山を望む歴史のある弘前の街はどこか京都を想わせ、第二の故郷としての愛着を覚えます。最後に私の今年の抱負は、中高とあまり鍛えてこなかった身体を鍛え、東北の自然も満喫し、2回生に備えることです。これからよろしくお願いたします。

### <これからのこと>

医学科 1年  
木村 大地

大学は出会いの場、という話は以前より耳にしていました。そして、それに違いなく、弘前で暮らし始めてたった1ヶ月の間にも、既に色々な人達と関わりを持ちました。コミュニケーションスキルを高めることや、自分自身を深めることも兼ねて、今後も様々な人

に積極的に関わって行きたいと思っています。

私には、自分のスキルを高めることを含めて、大学生生活6年間の内にやっておきたい事は山のようにあります。が、特にこの1年の間に、一番やりたいことは部活動です。恥ずかしながら、高校時代は帰宅部所属でした。「大学に入学したら絶対に運動系の部活に入る!」と心に決めていたのですが、医学科は2年生から超多忙になると聞きます。……じゃあ、今しかないではない

か。というわけで現在ゴルフ部に所属し、練習に打ち込んでおります。

先日、先輩に連れられて初めてコースを回りました。初回だというのに、なんとスコア+110をマーク!……尚、ゴルフはスコアの値の小さいほうが優秀です。スポーツに限らず、何であっても実際にやってみるととても難しいものですね。今、一番の目標はこの値を半分にすることです。

### <医学科に編入して>

医学科学士編入学生 3年  
永澤 桂

弘前大学工学部を卒業し、この春から医学部医学科の3年次編入生として、改めて弘前大学に入学することができたことを、ありがたく、そして本当に嬉しく思います。

私は今まで宇宙物理学を専攻していましたが、医学科入学前は、今まで

学んできた物理をどう医学に生かせるだろうかという不安がありました。しかし、実際に医学科での講義を受け始めると、物理が医学の中にも多用されており、物理学の知識が生かせる場面がたくさんあることに気付きました。それは医学も科学であり、科学の基礎として物理学が重要であるからだと思います。物理学を専門とし学んできたというメリットを生かし、これからの医学の勉強に役立てていきたいと思っています。

今年度の編入生20名のうち、弘前大学卒業生は私を含めて2人です。弘大生の皆さんには、母校である弘前大学で行われている医学科の学士編入制度をフルに生かしていただき、今後弘大卒の編入生仲間が増えたらいいなと思います。

在校生から

<新入生の皆さんへ>

医学科 2年  
対馬 佑一

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生ということで今までより自由な時間が増えますが、何をしようかと迷い、暇な時間を持て余している皆さんも多いかと思います。まずは何か自分が熱中できるものを探してみてください。人生において一番自由な時間のある大学生活をただ毎日だ

らだらと過ごすのはもったいないです。バイトに励んだり、部活動やサークルに熱中したり、自分なりの趣味に没頭したりするのもよいと思います。そこではきっと今までとは比べものにならないほどの、たくさんの人と交わる機会が待っています。出身、年齢、価値観の違う人たちと交わることでこれまでの人生では経験できなかったことも体験できることでしょう。それこそが大学生活の醍醐味なのです。私の場合は部活動に所属し励んでいます。高校生のときよりも時間に余裕ができ、それ

だけ部活動に集中できるようになりました。もちろん先輩・後輩との交流も頻繁にあります。普段は一緒にご飯を食べに行きドライブを楽しむような仲でも、部活中は仲良しクラブのようなだるさはなく、縦の関係がしっかりしていて、とてもメリハリのある部活動であることが誇りです。何はともあれ何事にも自分から興味をもって参加してみてください。そこに充実した大学生活を送るためのチャンスがあるはずです。

在校生から

<新入生の皆さんへ>

医学科 2年  
佐藤 陽太

新年度が始まって早くも一か月が過ぎました。新入生の皆さんは楽しく過ごしているでしょうか。自分のことを思い出しながら、少しだけ一年生の生活について書かせていただきます。昨年一年間は、勉強ではなく部活動など課外活動・遊ぶことにのみエネルギー

を費やしていたように思います。前期は多くの方が運転免許の教習所に通います。部活動もあります。それでもたくさん残る時間は、紀伊国屋に通う・自転車であちこち出かける・本を読む・お酒を飲むなど様々な過ごし方があります。長い夏休みを過ごし、後期が始まります。私達の学科は後期が始まったかどうかよくわからないほど授業が少なく、生活の質を保つには授業・部活動以外の何かが必要となります。

あまりに楽しい生活、アルバイトを始める人も増えます。二年生からの勉強の大変さをたくさん先輩から聞かされる私たちは、気合いを入れて遊びに遊びます。楽しく充実した一年生の大学生活には、部活動がとても大切だと思います。今からでも遅くはありません。部活動・サークルに入りましょう！

在校生から

<新入生の皆さんへ>

医学科 2年  
千葉 有紗

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。県外から来た人も県内出身の人も、弘前で生活には慣れたのでしょうか。そして大学生活には慣れたのでしょうか。今回は、新入生に向けてのメッセージということで、大学生活について書こうと思います。

新入生の皆さんの中には、大学生活とこれまでの高校生活との違いに驚いた方も多いと思います。授業は好きなも

のを選択できるし、登校時間も毎朝同じではないし、服装、座席などいろいろ自由です。高校の時よりは、大学生活は格段に自由です。私も1年生のころ、自由すぎて自分の空いた時間をどのように使っていか分からなくなったりもしました。

そんな新入生の皆さんにお勧めなのが、部活動やサークルに入ることです。私はバスケットボール部のマネージャーをしていますが、部活動では先輩後輩の人間関係や礼儀など、これからの人生に必要な様々なことを学ぶことができます。それだけではなく、その部活ならではの楽しい行事や同じ部

活仲間ができるなど、交流の幅が広がります。

高校の時は忙しくて部活をやれなかった人も、ぜひ自分が熱中できるような部活動やサークル、または趣味などを見つけてみてください。大学時代だからこそできることはたくさんあります。どうぞ、充実した大学生活を送ってください。





## <弘前の地で>

保健学科  
看護学専攻 1年  
杵鞭 祐貴

「寒すぎる！」と、弘前大学受験当日に口に出して叫んだ事を覚えています。南国沖縄で正に「温室育ち」であった私にとって、弘前の第一印象は「寒い」の一言でした。それと、「白い」！…大変

申し訳ない。

前述した通り、私は沖縄県の出身です。現在は学寮で暮らしており、そこでできた友人らとは、双方、出身地についての質問合戦でした。中には噴飯ものの質問もありました…沖縄人全員が色黒ではありません、これで察してください。(笑)

さて4月の下旬になりますと、弘前は「白い」から「さくら色」に包まれますね。これは本当に感動しました。何せ、

沖縄には四季らしい四季がありません。しかし弘前ではそれを肌で感じる事ができ、弘前で良かったと喜んでいます。殊に弘前大学門前の桜の樹は美しく、その満開の日、見事に咲いた花々に心が洗われるようでした。桜がすっかり化粧を落とした今でも、私はその時の清涼感、感動を原動力に、忙しく充実した大学生活を送っています。

この4年間、新たに踏み出した弘前の地で、どこまで自分を鍛える事ができるのか、自身に期待し邁進したいです。



## <南の国から>

保健学科  
放射線技術科学専攻1年  
東 俊輔

こんにちは。鹿児島県鹿児島市からやって来た、医学部保健学科放射線技術科学専攻の東俊輔です。ちなみに「アズマ」ではなく「ヒガシ」と読みます。雪と伊達政宗公に憧れて東北地方へやっ

て来ました。宜しくお願いします。

僕が弘前に来て思ったこと。それは気候が寒いことと、それでも人はあたたかいことです。

弘前に来てすぐの頃(今も時々ありますが)、弘前は道が入り組んで複雑になっているため、よく道に迷っていました。ですが、僕が困っていると地元の方が地図を書いてわかりやすく教えてくれたり、タクシーの運転手の方に学校への行き方を教えていただいたりしました。入学当初は知り合いもゼロ

で非常に心細く、孤独感に押し潰されそうになっていた時、同級生やサークルの先輩方が、人見知りや内向的な僕に優しく話しかけてくれてとても嬉しかったです。最初は緊張して全然話せませんでした。今ではたくさんの友人や先輩、優しい担任の先生や個性的で指導への熱意あふれる教科ごとの先生方と出会えて、毎日楽しく勉強や遊びにと弘前での学生生活をおくっています。弘大に来て本当に良かったです。そして早く真っ白な雪も見たいです。



## <弘前大学に入学して>

保健学科  
検査技術科学専攻 1年  
成田 明穂

弘前大学に入学して約一ヶ月が経過し、ようやく大学生活に慣れてきましたが、入学当初は大学の講義や友達の事など不安なことだらけでした。しかし、学生委員会の先輩方が大学の仕

組みについて丁寧に教えてくださったので、安心して最初の授業を受けることができました。また、高校までとは違い、自分の好きな授業を受けることができるので、90分という長い時間でも最後まで集中できました。その反面、自分で時間割を作りそれに合わせて行動しなければならないので、自己管理が大変だと感じました。しかし、自分の好きなことに費やすことのできる時間が大幅に増えました。このような時間を利用して、多角的にさまざま

な情報を吸収して自分の可能性を広げることや、いろいろな資格を取得して有意義に過ごしていきたいです。

大学は日本各地から人が集まっているので、県外の友達ができたりして、ずっと青森に住んでいる私にとって新鮮なことばかりです。津軽弁が通じなくてショックを受けることもあります。が・・・

これからの大学生活を、よく学び、よく遊び、しっかりと満喫していきたいです。そして4年後に大きく成長した自分がいればいいなと思います。



### <これからの4年間にむけて>

保健学科  
理学療法専攻 1年  
吉田 舞

私は、将来理学療法士になることを目指し、その学びの場として弘前大学を選択しました。入学して2ヵ月近く経過し、まだまだわからないことだらけの毎日ながらも、充実した大学生活を送れていると思います。

この弘前大学を選んだ理由は多々ありますが、一番の決め手は周囲の方々の後押しでした。高校の先生方や、たまたま知り合った理学療法士の方などから、弘前の良さ、弘前大学の充実した環境を聞いたことが本当に大きかったと思います。目指した大学に入学することができてとてもうれしく思います。大学というのは、高校までの受身の授業とはまったく違い、自分から進んで自分の目指すものに向かい学んでいくところです。私の所属する理学療法

学専攻では身に付けなければならないことがとても多いので、少し不安もあります。しかし、地道に努力し乗り越えていきたいと思っています。また、学ぶだけが大学生活ではありません。この大学で出会う友達、先輩方、先生方と、たくさん思い出を作りたいと思っています。今まではできなかったような新しいことにもどんどん挑戦していきたいと思っています。4年間という限られた時間の中で、今しかできないことに一生懸命取り組み、後悔することがないようにしたいと思います。



### <作業療法専攻のクラスメイト達について>

保健学科  
作業療法専攻 1年  
梅田 大峰

作業療法専攻と聞くと、ある程度の常識を持ち合わせ性格もおおらかな級友たちを勝手に想像していたりしたのですが、他人の家のガスコンロの下にソーセージをばら撒いたり、布団の中

に潜り込んで手足を絡めてきたり、挙句の果てにその中で屁をしたりする人達が常識的でおおらかなという甚だ疑問であり、初めのころクラス内にチマチョゴリみたいなズボンを穿いている人がいて、おおすごいうちのクラスには韓国人がいるアニョハセヨーとか思ったりもしたのですがその方は普通に日本人でした。話は変わり、実はこのクラスには自己紹介のときに自らをイケメンと称す

る人が居るほど男子七人のイケメン率が86パーセントと高いのですが、イケメン、可愛い娘には彼氏彼女がいるというのが世の常でありますので残念ですが女子の皆さん諦めて下さい。大丈夫、僕がいます。では最後にひとつ小話を。先日、急に納豆が恋しくなりマルエスまで買いに走ったのですが、そのとき僕はある名言を思い出し成程こういうことだったのかと一人関心した次第であります。「少年よ、太子を抱け。」



### <大学院への抱負>

保健学研究科  
生体情報科学領域 1年  
菊池 一貴

大学院へ進学した理由は、主として自分を磨き、自信の価値を高めることにある。近い将来、一放射線技師として働き続けるだけでなく、指導していく立場であったり、管理する立場にな

れる人間になりたいと考えている。そう考えたときに、大学院で2年間学んだことが大きく活かせるのではないかと考えたことが大学院へ進学するきっかけとなった。大学院での研究や講義などを通して、高度専門知識の習得や技術を身につけ、それを自ら実践できる能力を身につけること。加えて、日々の経験から管理実践能力や現状把握力、問題解決力を伸ばすこと。これらのことを目標に大学院の2年間を過ごしたいと考えている。特に、前者の高度専門知識の習得

や実践力は、大学院でこそ学べることが多々あるため、努力を惜まず頑張りたい。また、常に感謝の心を忘れず、積極的に関わっていきたくと思う。また、常に現状に満足することなく、向上心をもって生活していきたい。大学院に進学するにあたり、卒業研究の研究室とは別の研究室を選択して進学したのだが、そういったなかで、快く迎え入れていただいた教授や研究室のみなさんには非常に感謝しています。



### <大学院に入学して思うこと>

保健学研究科  
健康支援科学領域 1年  
細川 満子

私は平成13年に閉課程となった弘前大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程を卒業し、このたび弘前大学大学院保健学研究科博士後期課程に入学しました。かれこれ四半世紀以上の長

い年月を経て、再び懐かしい母校の門をくぐることになったわけです。大学には大学の先輩や後輩の先生方も多く、少々学ぶ時期を脱したかと思われるような私を温かく迎え入れてくださり、今後の研究活動に向けて勇気を頂いております。現在の抱負は、実践者とのパートナーシップを築きながら研究を進めるというこれまでのスタンスを継続しつつ、地域に生じている問題や現象につ

いて解明するとともに、実践現場に還元できるような研究を進めていきたいと考えています。また、看護教育にも携わっていますので、若い人たちが抱いた問題意識を絶やすことなく、将来研究に取り組んでいけるような指導力も身に付けていきたいと思っています。その過程は、決して容易なことではなく、困難な状況に置かれることも多々あると思いますが、私の座右の銘でもある「無限」の可能性を信じて、一歩ずつ目標に向かって努力していきたいと考えています。





数理工学科 1年  
伊瀬谷 智大

<弘大に入学してからの感想>

「大学の授業についていけるだろうか」「同じクラスの人とは仲良くなれるだろうか」そんな不安を抱えながら入学式を迎えた。

長い。それが入学式の感想だ。終わりのみえない入学式が不安でいっぱい私の精神状態を悪化させた。そんな気持ちのまま最初の授業の日になった。私は人見知りするのでなかなか自分から初めて会う人に声を掛けることができずにいた。すると、周りの人が話しかけてくれて思ったよりも早く仲良くなれた。まだ大学は始まったばかりで授業についていけるかどうかはわから

ないが、友達が増えたことで今は不安に思うことが減った。

大学生活は予想していたよりも楽しい。部活にも入り、部活の先輩は優しくておもしろい人達でとても安心した。今まで過ごしてきた中で今が一番充実した日々を送っていると思う。これからの大学生活ももっともっと楽しんでいきたいと思う。



物質創成化学科 1年  
西谷 允一

<弘前大学に来て>

僕が弘前大学に来て最初に感じたことは、様々な人たちがいるということです。県外から来た人や地元から通う人、海外から留学してきた人、何かに

夢中になっている人などのように、まるで社会の縮図であるようだとされているのも納得できます。自分もその一部だと考えると、これまでの生活とは一風変わって、不思議な気分です。僕はこれからの生活において、この大学を経験の場であると考えています。それは、生きていく中で、一番いろいろなことを経験できるのは大学生活であると思うからです。よく、大学生活は暇だと言う人がいますが、僕はそう

は思いません。逆に自分ができることや経験したいことを自分で決めることができるので、いくらでも忙しいものになると思います。

これからの四年間、この社会の縮図であり経験の場である弘前大学で、自分の家計のためだけでなく社会のために、自分のためだけでなく他人のために役立てるように、これから様々なことを学んでいきたいと思っています。



知能機械工学科 1年  
柴田 真菜美

<弘大生として>

弘大生として入学してから、サークルや友達、学部・学科の付き合いなどで、5回お花見をしました。最後の頃は葉桜になってましたが、満開の桜

とその桜に囲まれるように建っている弘前城を見た時、弘前に来て本当に良かったなと心から思いました。大学生になってつくづく感じることは、自己責任ということです。親元を離れて暮らす私にとって、今までほとんど親任せでしていたことがいきなり自分でやらなくてはいけなくなり、親のありがたさが今まで以上に分かりました。特に、朝起きるときや食事の支度は大変です。また、授業なども今ま

でとは違い、時間割も自分で組んだりするので難しかったです。これからの授業もしっかりついて行けるように努力あるのみです。

私は、大学というのはやりたいことに挑戦できる場だと思います。だから、サークルでも遊びでも勉強でも何に対しても積極的に挑戦して、自分ができる限りやっていきたいです。そして、この大学生活を弘大生として満喫したいです。



地球環境学科 1年  
沼田 康平

<この一ヶ月で考えたこと>

弘前大学に入学して早いもので一ヶ月が過ぎました。この一ヶ月間は、僕にとって初めて親元から離れての生活なので、不安と期待というより、勉強

や友達のこと、ほとんど不安でいっぱいでした。今では、大学生活にも慣れてサークルも楽しもうと思っています。最近ある先生が「宇宙のことを学ぶ意義は何ですか?」と授業で聞きました。正直その意義が何なのかは、僕にはわかりません。僕は、宇宙のことだけではなくて地球環境学科で学習していくことは、未知のものを推測するということにあると思うので、いろいろな考

えを持つたくさんの人たちが学ぶことで意義をもち、結果として表れるものだと考えています。そして、その意義を知るために、この弘前大学で今まで興味のなかった事でも全力で取り組むつもりです。これからの大学生活では、想像できないくらいにいろいろなことが待っているはず。それらを取り越えて自分の目標に向かって努力していききたいです。



物理科学科 1年  
三森 悠平

<弘大に入学して>

正直大学の生活が始まるまではたくさんの不安がありました。中でも大学の授業についてはとくに不安でした。それは今までの授業の受け方とは全く違うのでどうなるのだろうというおもいからでした。しかし今となっては不安もなくなり大分慣れてきています。自分は

寮に入っているのでもいろいろな行事があり、大変なこともあります。友達も早くからでき、先輩もいるので困ったときは頼ることもできます。

これからもいろいろあると思います。が弘前大学に入ってよかったと思っています。



電子情報工学科 1年  
今田 智也

<大学に入学して>

けでしたが、今はある程度生活にも慣れて一人暮らしを満喫しています。今の状態を考えると数カ月前までひたすら机に向かっていた自分が嘘のようです。

自分は勉強が嫌いなので、大学に入る前は「合格すれば勉強なんかなくてもよくなる」とか勝手な事を考えていました。もちろんそんなことはありません。宿題、予習、小テスト、一ヶ月経ったこの時点で普通にあります。でも大

学というのは勉強する所ですから、これから社会に出て働くためにもしっかり取り組んで、一般常識から専門知識までいろいろなことを学んでいきたいと思っています。

自分は部活に入っているのも多少は忙しくなりますが、文武両道で充実した4年間を過ごしていきたいです。そして、弘前大学に入れたことを誇りに思っ、一日一日を大切にしたいです。

弘前大学に入学して約一ヶ月が経ちました。自分は初めての一人暮らしだったので、入学する前は不安なことだら

在校生から

<新入生のみなさんへ>



物理科学科 2年  
有田 真理子

新入生のみなさん、ご入学おめでと

うございます。新しい生活には慣れましたか？弘前は道が入り組んでいるから、初めての方は要注意ですよ。私は、入学してから半年くらいは、どこに行くにも地図を持ち歩いていましたし。

次に、掲示板はせめて1週間に1回は目を通した方がいいですね。総合棟に

ある掲示板は勿論、学部にある掲示板、学科の物も含めて見た方がいいです。大学ではHRがないため、掲示板で連絡を済ますので。

あと、サークルはやった方がいいですよ。違う学部で同じ趣味を持った方々と知り合えて、凄く楽しいです。学校で分からないことがあれば、先輩に聞けますしね。

在校生から

<新入生へのことば>

電子情報工学科 2年  
平山 理恵

新入生の皆さん入学おめでとございます。大学生活には慣れましたか？昨年の自分の事を考えてみると高校の生活との違いに戸惑い毎日過ごす事

いっばいっばいだったように思います。大学の授業は自分で選んで受けるものが多く、全て自己責任です。自分で受けたいものを選んで受けるので受けたくないものは受けなくてもいいので、やるのもやらないのも自分の自由です。それでも責任がついてまわり単位が足りなくて卒業出来なくてもそれは「自分の責任」なのでそれだけは忘れないようにしたほうがいいと思います。

また大学は高校よりも人数が多いの

でたくさん友達が作れます。せっかく大学にきたんですから、勉強だけではなく友達と遊んだりサークルに入ったりと毎日を楽しむ事もいいと思います。バイトをしてそのお金でみんなと遊んだりするのも楽しいし何よりバイトは社会を学べるいい場所です。

これから待っている4年間は長いようでもっとも短いと思うので1日1日を有意義に過ごしていい大学生活を送っていただければいいなと思います。

在校生から

<新入生の皆さんへ>



地球環境学科 4年  
三浦 大帆

新入生の皆さん、ご入学おめでとございます。あなた達がこのメッセージを読む頃には、大学生活にも慣れて

来たことでしょうか。大学の4年間はあっという間に過ぎさってしまうと良く言われます。私もサークルの先輩からよく言われました。小さい頃は1年ですら長かったのに。これは自分の人生の中で特別なイベントが1年間の中で多いか少ないかによります。小さい頃は楽しかった誕生日や運動会、正月も、何回もあるうちに特別感が薄くなるんでしょう。そこで私はある作戦をたてました。

大学生活を同じ4年間でも長く、かつ楽しく過ごすために。その作戦とは、自分にとって新しいことに挑戦していくことです。こういう文章でありがちなフレーズですね。それによって自分の歴史の1ページの内容を濃くします。新しい事とは、勉強、サークル、アルバイト、何でも興味を持ったらやってみましょう。それでは皆さん、楽しい大学生活を送って下さい。(楽しい時間ほど、早く進むものではありませんがね。)



## &lt;これからの私&gt;

生物学科 1年  
菅原 尚子

私は宮城県仙台市出身です。弘前大学の二次試験の時、初めて青森県を訪れました。その時は、雪がたくさん降り積もっていて、仙台と比べると、同じ東北地方にいてもこんなに気候が違うのかととても驚きました。3月7日には合否を確認しました。結果は合格だったのですが、私はあまり心から喜べませんでした。それは、弘前大学が第一

志望校ではなかったからです。実は私は浪人しています。昭和生まれです。私は毎日朝早く起きて予備校に通い、心から打ち解ける友人もでき、厳しく辛くもとても充実した生活を送っていました。一年間浪人して、自分なりに精一杯頑張りましたが、思うように結果を出すことができませんでした。弘前大学を誇りに思っている方や、弘前大学を受験して落ちてしまった方には大変申し訳ないのですが、私はこの前まで弘前大学を心から好んでいるわけでもなく、楽しんでいるわけでもありませんでした。こんな私がここにいていいのかな?などと、いろいろ悩んだ時期もありました。

しかし、最近他県から来た友達や先輩方と話していると、これからの生活に期待を抱いている自分がいます。また、弘前は、りんごの名産地であり、桜祭りやねぶた祭りでも有名です。大学からは岩木山を眺めることができ、城下町の名残りが所々生きていて、とてもすばらしいところです。私は自然や動物が大好きなので、生物学科に所属していますが、この弘前の大自然に生息する野生生物のことや環境問題など身近なところから世界の様々の問題を見据えてこれから勉強や研究に取り組みたいと思います。そして、入部した空手道部にも精一杯励み、毎日充実した大学生活を送りたいと思います。



分子生命科学科 1年  
近藤 友美

この弘前大学に入学して数週間がたち、新しい生活にも少しずつ慣れてきました。

私の出身は北海道の名寄市という弘前市からは電車で9時間近くかかるところです。合格をもらった当初は今まで頑張ってきたことが報われた嬉しさ

## &lt;充実した大学生活に&gt;

や新生活への期待と希望に溢れていましたが、いざ自分の生まれ育ったところを離れる頃には不安な気持ちの方が勝っていました。行ったこともない土地での生活、知り合いもいない、大学の授業にもついていけないのか、様々な不安を抱き緊張しながら弘前に来ました。

ですが今、日々の生活が充実したものになっています。(来た初日は胃腸薬にもお世話になりましたが)大学の雰囲気や出会う人、弘前の街など毎日新しいものに触れることがとても楽しいです。

正直に言ってしまうと、私は農生の学生でありながら高校の時に生物を

習っていません。それでもこの学部を受験したのはここで学びたいことやこの先やりたいことをここに見出したからです。「自分の道を自分自身で選んで進むこと—自己選択は重要。しかし一番大切なのは、その自己選択が最良のものとなるように努力すること。」高校の時の担任の先生が言ってくれたこの言葉を胸に留め、周りよりも何歩も出遅れている分以上に頑張っていこうと思います。これから本格的になっていく授業、様々な人と交流し活動するサークル、自己管理を意識した自身の生活、落ち着いた頃にはアルバイトなど、多くのやるべきことややりたいことに挑戦し視野を広げて、この大学生活4年間で多くのことを吸収していきたいです。



生物資源学科 1年  
橋本 陽

弘前は北海道よりも温かいのが印象的でした。この地でこれから自分が一人暮らしをやっているのかどうか不安に包まれていました。それでも入学式を境に不安を消し飛ばすような忙しい大学生活が始まりました。

## &lt;ポスト自分&gt;

小学校の時から理科が好きで、大学では好きなことをいっぱい勉強したいと思い弘前大学農学生命科学部に入学しました。農学生命科学部は教育・研究の理念として「理農融合」を掲げており、全国でもまれにみる斬新な学部体制が魅力的でした。

大学では積極的な行動が重視されると言われます。受け身型の生活を続けていた私には少々慣れづらいのですが、4年間という時間を有効に活用しながら大学型の生活タイプに切替えるのが大変です。自分から行動を起こすことは億劫になりがちなことですが、社会に出ても積極性は非常に重視されることなので、私の大学生活のテーマに「ポスト自分」を掲げ大学の行事など

には極力参加するよう心掛けています。

本学では人生で未経験の美術部に入学することにしました。今は大学祭に行われる作品展示に向けて作品の製作に打ち込んでいます。部活を通じて同学年の交流はもちろん、上級生とも交流できて貴重な体験になっています。

また、大学生活は今までと違い一人暮らしのため、精神的にも不安なことが多いです。それでも今は友達と助け合いながら大学生活を満喫しています。高校時代には味わうことのできなかつた新しい環境に徐々に慣れつつあります。

まだ大学生活がはじまって一ヶ月あまりですが、入学前の自分と比べて少しは成長したと自覚できることが一歩ずつ自信につながっていくのだと思います。



園芸農学科 1年  
木村 駿佑

全く知らない土地、全く知らない人々の中で一人暮らしを始めなければならない。4月の当初はこれから始まる生活に不安なことを挙げたら切りがありませんでした。しかし、日が経つ

### <弘前大学に入学して>

につれそんな不安は友達や先輩のおかげで徐々に消えてゆき、気づけば1ヶ月経っていたという充実した1ヶ月間を過ごしました。そして、家事の手伝いを一切と言って良いほどしたことがなく、大きな不安の一つだった家事もかろうじて炊事・洗濯・掃除を一通りこなせるようになり、まだたった1ヶ月の大学生活ですがいろいろな面で1ヶ月前の自分とは確実に変わっている。そんな自信も持てるようになりました。

大学は高校に比べて自由な時間を過ごすことができるため、楽に過ごそう

と思えば楽に過ごせると思います。特に一人暮らしの生活では自由な時間を過ごすことができると思います。そんな自由な環境だからこそ節度ある生活をため目標を立てました。勉強はただ単位やテストのためだけに勉強をすることはせずに、自分自身のために勉強をする。いろいろな人との出会いを大切にできるような人間になる。大学生でなくてはできないようなことに挑戦する。これらが大学生活での大きな目標です。徐々に目標を増やし、達成し、大学を卒業するときには4年間でこれだけ成長したんだ。と自分でも実感できるような充実した大学生活を送って行きたいと思います。



地域環境工学科 1年  
岡部 奉子

私は農学を学びたかった。そこで、自分のレベルに合い、かつしっかりと学べそうな大学をと思い、弘前大学進学を決意した。高校の担任がこの大学

### <きっと、好きになる>

の卒業生でもあり、いい大学だということも知っていた。

そして、初めて弘前大学へと向かった時のこと。むきだしの手に風が突き刺さるような寒さだったが、私はきっとこの大学を、この町を好きになるだろうと思った。北海道から来た私は入学前にこの大学を見学したことがなく、どんな雰囲気为学校なのかかわからず、ただ手元の資料を元に頭の中で想像するだけだった。キャンパスに入ってみた第一印象は、『新しい！綺麗！広い！』という子供じみた感想だった。建物か

ら漂う新築特有ののにおいに興奮した。何もかもが想像以上だった。奇妙なことに新しい環境への不安はあまりなかった。私の生来の能天気さのせいか、はたまた新しい物に逐一反応するのに忙しかったのか。どちらかといえばその両方だろう。やるべきことが多く、あれもしなくちゃ、これもしなくちゃと考えるのがまた楽しい。高校時代とは異なる新しい形式の授業は想像以上に興味深く、友人も新しくできた。みっちりつまっているような、濃厚な一日が続く。日が過ぎるのが早く、そしてそれが非常にもったいない。

## 在校生から



応用生命工学科 3年  
塩崎 亮宗

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

大学での生活も2か月を過ぎるとだいぶ慣れてきたことと思います。

そんな皆さんに先輩として大学生活を送る上で1つ注意があります。それは大学での1年間はとてつもなく速いということです。ゆえにいかに過ごすかが重要です。

### <時は誰をも待たず>

私が入学して間もないころ、ある授業で担当教授に「大学は人生最後の猶予である」と言われました。社会に出れば、様々な制約や規定に拘束されます。しかし大学では履修やアルバイトなど様々なことに裁量を任され、自由に過ごすことができます。

実際、私も授業を休んで旅行をしたこともありますし、徹夜で遊んだことも多々あります。

しかし、そんな自由な大学生にも裁量が与えられる分、責任が伴います。レポートの期限、取得単位数、そして今後の進路決定。しかもそれは必ずやってきます。つまり責任を取る日がいつかやってくるのです。進路決定に関して言えば、院に進学するにせよ、就職するにせよ大学生活をいかに過ごしてきたかが評価されます。

ここで重要なのは“Time waits for no one.”与えられた時間は皆同じということです。

4年という限られた時間をどのように投資・運用するかは皆さん次第です。是非、よき友をつくり、よく遊びよく学び充実させてください。

最後に就職活動でお世話になった人事の方から頂いた言葉です。「嫌ならやめなさい」

みなさんには、やめる決定権があるのですから本当につらいならやめた方がよいでしょう。しかし、本当に嫌に思うだけの努力をしたのか、また面白さを知るだけのところまで来ているのか？をもう一度振り返ってみてください。

みなさんが最後の猶予の時を充実した大学生活に出来ることを祈っております。



# 二度、中国に行っ

農学生命科学部 片方 陽太郎

一昨年の9月と今年の3月に中国(それぞれハルピンと香港・広州)への出張があり、感じたことを小生なりに振り返ってみたい。

一回目のハルピン(黒龍江省の省都)は、弘前大学とハルピン師範大学との交換協定による交互に教員を派遣し、交流と研修を深めるものであった。このハルピン師範大学(本部)はハルピン市内より車で約1時間のところに位置しており、新学期の始まる時期であったので、新入学生が大学生活をするうえでの準備にちょうど一致していた。ちなみに中国の大学は全寮制であり、構内には立派な6階建ての建物が見えていた。正門前で下車し、正面には10階建ての建物があり、大学本部であることを知らされた。まず驚いたことに、構内がとてつもなく広く(これまで見た世界の大学の構内と比較して)、しかもゆったりとした配置、その中に自然の地形も残しているところであった。池やゆったりした水の流れ、そこにかかった橋や悠々と泳いでいたコイに心が洗われる思いであった。広い構内ではあったが、学生の自転車の乗り入れは禁止しているようで、雑然と置かれている光景はなく、悪い印象は感じなかった。

「紫外線の皮膚への影響と人間生活」というタイトルで3回の講義(①紫外線の効能、②紫外線の怖さ、③紫外線とともに)を行ったが、学生らの真剣に講義を受ける態度に強く共感を覚えた。何年か前に大学の友人に中国で講義するとまず全員の拍手で迎えられることは聞いていたが、まさにそのとおりであった。大変に照れくさいというか、初めての経験であったことで自然に講義に力がこもっていたように思えた。日本語を中国語に翻訳してくれる方はいたが、とてもまどろっこしく途

中から英語で講義を進めた。それは学生の半数以上が私の下手な英語でも理解可能であったためである。紫外線と皮膚の関係を、人間のみならず地球全体との関連性も交えての講義をおこなった。3回目の講義では下手なjokeにも反応してくれ、自分自身としても楽しい講義であったことを覚えている。

一方で3週間のハルピンでの生活は少し悲惨なものであった。何の手違いか外国人留学生の寄宿舎に入れられ、それはやはりつらいものであった(guest houseへ移してくれと希望したが、不可能であった)。講義を終

えてすぐに帰国することも考えたが、当方も少し開き直ってハルピン(大学)での生活を楽しんでみようと考えを変えた。前述したように中国の大学1年生は全員寄宿舎生活であり、入学後の2週間くらいは毎日、朝から夕方まで迷彩服を着た男女20~30人くらいのグループごとに、「イー、リャン、サン」と声をそろえての歩行訓練・行進がつづいていた。もちろんその間に休憩もあったが、「きつそうだな」という印象を抱いた。その休憩のときにそのグループの教官に英語で許可をとり、学生たちも交えていろいろ尋ね、楽しいひと時をもった。その時の写真を下に掲載した。18歳の笑顔は日本の大学1年生と全く同じであったが、大学構内での統率のとれた行進から、潜在的・爆発的エネルギーを感じざるをえなかった。やはり中国は14億人という世界一の人口の国である。現在の日本には見られない光景であり、「学ぶべきこともあるな」と感じた。



写真1 迷彩服を着て行進。後ろの建物は学生寮。



写真2 休憩時に写真を撮一枚、まさに18歳の大学1年生。



二回目の中国出張は今年の3月中旬に出かけたが、ナマコの流通経路の実態・調査と食品としての品質の管理を知るためのものであった。出発近くに己の体調を少しくずしており若干心配していたが、無事にこなして日本に戻ったことを覚えている。

上述したように二度目の中国への出張であったが、前回のハルピンは北緯40度、東経125度と、まさに中国大陸の東北に位置する大きな町であったのに対して、香港は逆に南に位置し、ベトナムに近い太平洋に面した暖かなところであった。まず香港の国際空港に降りたち宿泊のホテルに移動したが、そこまでは車で約1時間といったところであった。高いビルディングが海岸近くまでせまっており、対岸の島が香港島とのことであった。翌日、その香港島(経済と商業の中心地域)の海産物問屋街にゆき、ナマコの流通経路、日本(特に北海道や青森)からのナマコの品質や量、さらに価格や評判などについて二人の貿易商の方から話を

伺い、いろいろと情報を仕入れた。その話によると、日本で考えていた以上に世界の各地から大量に乾燥ナマコを集め、香港・広州(翌日に出かけた広東省の省都)からそれぞれ世界各地と中国本土への物流の起点になっていることも知りえた。ここでの話しによると、日本産ナマコの乾燥技術の高い水準と品質管理が高く評価され、価格ももっとも高い(15~20万円/Kg)と話していた。近年、中国の富裕層に日本のナマコの需要が高く、さらに価格が上昇するのではと予想された。その理由のひとつには、日本のナマコの品質(色、大きさ、乾燥の程度など)が他の国(世界中の国から)からのものと比較して良いことであった。中国の輸入業者にとっては注文どおりの規格にきちんと揃えて輸出していることが、高い評価につながっているとのことであった。この辺のところは日本人のまじめさというか几帳面な国民性に依存しており、信頼が高いことを知った。ただ世界のいたるところから、まさにすべ

てのナマコを中国に集めている実情も知り、乱獲による地域環境の破壊の懸念も頭をよぎった。ナマコは浅い海辺、いわゆる海の砂や泥の栄養物を取り生育している。その繁殖や生態についてはまだ正確にはわからないのが実情である。海の掃除屋さんともいわれていることから、乱獲による生態の変化と海辺への悪影響が心配である。翌日、再度香港島に渡り、(海底トンネルが2本通っていたし、ヘリーボートでも渡ることは可能である)別の問屋街をみてまわった。ある程度予想していたが、英語がまったく役に立たず、中国人の先生が同行していたために何とか調査は可能であった。昨日と同様、日本産のナマコは価格が最高値を示していたが、やはり品質の良さ・規格の一定(揃っている)なことがその主な理由のようであった。ナマコ以外にもたくさんの種類の海産物が所狭しに並べたが、価格面からするとトップランクになっていた。他にスズメの巣、サメの胃袋・腸、フカヒレなども高い値段がついていた。すべて世界の中華料理の食材に廻るものばかりである。中国本土への食物の流通の起点ともいえる広州に出かけたのは香港到着の3日目であった。香港から電車で2.5時間のところに位置し、約700万人が住むという中国第三の都市である。やはり海産物の問屋街に出かけた。それでもやはり香港での情報と類似したものであった。二つ目の店に入ったときに、突然、天井の板が剥がれ落ちるとい、ハプニングに見舞われた。幸い何の怪我もせず無事であったが、沢山の人間があつまるところでの公共的意識の希薄さのようなものを感じた。しかし、そんなことはあまり気にもせず、に当方らの質問に真剣に答えてくれ、とてもありがたく感じた。十分な情報を仕入れたところに別れを告げ、電車で香港に戻ったのは夜の8時を過ぎていた。

二度の中国への出張で感じたことは、やはり中国は大きな国であり、北京オリンピックも大きな国家的行事の一つであるが、それ以上に大国になりうるエネルギーが潜在しているように感じた。



写真3 香港の海産物問屋街で、サメの浮き袋を持って。



写真4 道路に置いた乾燥ナマコ(オーストラリア産)。



## IV 新任教員自己紹介

### 人文学部

ビジネスマネジメント講座

講師

岩田一哲



4月より人文学部ビジネスマネジメント講座の講師として着任致しました岩田一哲と申します。従業員の企業への忠誠心と仕事への動機づけの関係について考えており、最近、過労死・過労自殺の危険因子は何かを遺族の手記の分析

から検討しております。前勤務先は香川県の高松でした。気候等がガラリと変わりましたので、その違いを楽しみながら、教育・研究に精一杯取り組みたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

4月に着任しました和久秀樹(わくひでき)と申します。妻そして中学2年と高校2年の子どもと住んでいる青森市内の自宅から通勤しています。3月まで青森県立青森東高等学校において数学を教えていましたので、多くの卒業生が弘前大学にお世話

なっています。これから「教員養成」に関わることとなりますが、22年間の学校現場での経験を活かして教育・研究に精一杯取り組みます。見かけたら気軽に声をおかけください。よろしくお願いいたします。



### 教育学部

教員養成学研究開発センター

准教授

和久秀樹

### 教育学部

美術教育講座

講師

出佳奈子



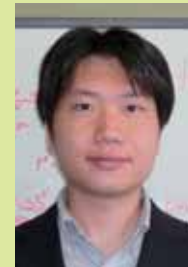
はじめまして。この4月に着任しました出です。美術教育講座で美術史を担当しています。ルネサンス期のイタリア美術を中心に研究しており、現在は、芸術概念の形成とコレクションの関係などに関心を持っています。

弘前に引越してきてはや一ヶ月半が経とうとしていますが、その間、うわさに聞いていた弘前公園の満開

の桜や、白くきれいなりんごの花などを見て春を楽しむことができました。雪国に来たのは初めてなので、日々、これまで見たことのない野菜や魚に出会いながら、食もおいしいところだな～と感心しています。新鮮な環境の中で、新たに教育・研究に取り組むよう務めたいと思っています。よろしくお願いいたします。

はじめまして。私は理論物理、特に素粒子論、超ひも理論を研究しています。物理理論は非常に美しく、深く、非自明で面白いと思います。大学に入ってからの内容でないところの素晴らしさは解らないと思います。将来先生になる学生のみなさんにこ

の素晴らしさを伝えられたら、と思います。研究のほうも青森県唯一の超ひも理論研究者としてがんばりたいと思います。一生、物理の研究を続けていけることになって幸せです。よろしくお願いいたします。



### 教育学部

理科教育講座

講師

佐藤松夫

### 教育学部

家政教育講座

講師

森崎真奈美



4月より家政教育の被服学の担当として着任しました森崎です。被服学の中でも、繊維を加工して優れた機能を付与することや、新しい染色法および洗浄システムの開発を主に研究しています。

これから自然豊かな弘前の地で、弘前にしかないユニークなアイデアを発信していきたいです。常に向上心をもち、前進していきたいと考えておりますのでこれからどうぞよろしくお願い致します。

はじめまして。保健学研究科に赴任しました細川です。着任当初は弘前市の地理や大学のシステムが分からず、四苦八苦しましたが、周囲の方々の暖かい御助力により、最近ようやく余裕ができました。弘前は歴史ある神社仏閣があり、また、人々

の心には古き良き伝統が根付いているように拝察いたします。これからも、この土地の魅力を探訪しながら、研究、教育ができることを楽しみにしております。今後も宜しくお願い致します。



### 保健学研究科

医療生命科学領域

准教授

細川洋一郎

保健学研究科

医療生命科学  
領域  
助手  
小山内暢

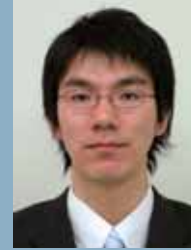


4月に着任しました小山内暢(みのる)です。弘前出身です。弘前大学医学部保健学科を卒業後、診療放射線技師として勤務してきました。少ない臨床経験ですが、これからの教育・研究活動に活かせるよう

に、さらに努力していきたいと考えています。生まれ育った、愛する弘前の更なる発展に少しでも貢献できるよう励んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

4月より保健学研究科放射線生命科学分野の助手に着任致しました門前暁(もんぜん さとる)と申します。特に放射線被ばくによる生体分子メカニズムに興味があるところです。津軽の伝統文化を学び、毎年春に開

催される「さくらまつり」を始めとした催し物と、種類豊富な地酒を味わいつつ、教育・研究両面から最大限頑張っていきたいと思っております。まだまだ勉強不足ですが、どうぞ宜しくお願いいたします。



保健学研究科

医療生命科学  
領域  
助手  
門前 暁

理工学研究科

研究部  
教授  
岡本 浩

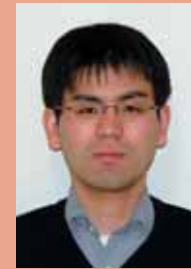


大学院理工学研究科(電子情報工学科)に着任しました岡本です。通信系企業の研究所と関連会社の製造部門を経てこちらにまいりました。専門分野は光半導体デバイスです。学生の皆さんには電子工学の面白さをぜひ感じていただきたい

と思っています。ちなみに最近のモットーは「意志あるところに道はある」です(実は宮里藍さんがTVで言っているのを聞いてからですが...)。一緒に勉強と研究、頑張り、そして楽しみましょう。

2008年4月1日から、理工学研究科に助教として赴任いたしました。学部の担当学科は数理科学科です。赴任してまだ間もないですが、この理工学研究科がある文京キャンパスは閑静な住宅街、学校等に囲まれており教育、研究をするには非常に恵

まれた環境であるという事、また弘前市の中心部にもほど近く、生活の面からも便利で過ごしやすい街だと感じております。今後とも諸先生方の教育、研究を見習って、努力していきたいと思っております。



理工学研究科

研究部  
助教  
小林真平

農学生命科学部

生物資源学科  
食料開発コース  
助教  
前多隼人



はじめまして。この春3月に北海道大学大学院水産科学院の博士後期課程を修了し、4月より農学生命科学部に赴任致しました。「前多」と書いて「まえだ」と読みます。これまでは人の健康維持や病気の予防

につながる食品中に含まれる機能性成分について研究をおこなってきました。弘前大学では農林水産物のすぐれた機能を見つけ出す研究に取り組みたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

これまではニホンナシの栽培を中東のイスラエルや中国の砂漠地帯に広げていくための研究をしてきました。青森には先人が培ったリンゴ栽培の知恵があります。それらを解明し、発展させていくことで青森りんごの栽培現場をより元気にしてい

たいと思います。その上で、青森の技術を青森から世界に発信していきます。地域の宝「青森りんご」にこだわりつつ、国際的な視野での活躍をめざすみなさん、藤崎農場で共に学んでみませんか?



農学生命科学部

生物共生教育  
研究センター  
助教  
松本和浩

農学生命科学部

生物共生教育  
研究センター  
助教  
房 家琛



中国吉林省出身で、2001年に日本に参りました。生物共生教育センター金木農場配属です。専門分野は畜産学で、主に未利用・新規資源の飼料利用について研究してまいりました。金木農場で学部教員

と共に、農場と地域の産業が連携する研究を展開し、これまでの研究と家畜管理経験を実験実習に生かして指導し、フィールドで活躍出来る学生を社会に輩出したいと存じます。よろしく お願いいたします。



## V けいじばんコーナー

### 平成19年度弘前大学学生表彰を授与



遠藤学長(前列右から8人目)と受賞者ら

弘前大学では、研究活動や課外活動で活躍した学生及び学生団体を表彰する学生表彰授与式を、2月21日(木)同大学事務局大会議室で行った。

今回の受賞者は課外活動で特に優秀な成績を挙げた6団体、社会活動で特に顕著な功績を挙げた3団体、課外活動で特に顕著な功績を挙げた個人16名、研究活動で特に顕著な成果を挙げ

た学生10名の合計35組で、表彰式には各学部長・各研究科長、指導教員及びサークル顧問の教員も出席し、遠藤学長から学生1人ひとりに表彰状と記念品が贈呈された。

遠藤学長から、「年々授賞者が増えているのは、学生の皆さんが活発に活動しているからで、大学の活性化に大いに貢献している」と学生の功績を讃

えた。

受賞者を代表して、第24回NHK全国大学放送コンテストで文部大臣奨励賞を受賞した弘大ラジオサークル代表・人文学部2年の黒滝春香さんが「今後も、大学生としての本分を全うし、弘前大学の学生であるという誇りと自覚を持って、それぞれの活動に励んでいきたい」と謝辞を述べた。

## VI 編集後記

新入生の皆さん、ようこそ弘前大学へ。これからの弘前大学での日々があなた方にとってかけがえのない人生の1ページを飾ってくれることを願っております。

ところで、表紙絵に教育学部学生の作品が掲載されるようになったのは、第145号(2004・9月)からです。この第159号までに、15名の学生の作品が表紙を飾ってくれました。今回は教育学部生涯教育課程芸術文化専攻3年の藤井花恵さんの作品(タイトル:捕食)です。ご本人に作品についてコメントをいただきましたので、ご紹介致します。

この絵は“MONSTER”というテーマで描いた作品で

す。人の思考や言葉の中にモンスターは潜んでいます。それを口を描くことで表しました。また、モンスター=怪獣は、人を食べる、というイメージを持っていたので、「人間の中に潜むモンスターが人間自身を食べてしまう」「そんな凶暴なモンスターは人間の中に潜んでいる」というメッセージも込めて描きました。あえて明るい色彩にすることで、モンスターの不気味さを一層表せたと思います。

今後も、教育学部学生の作品が表紙絵を飾ってくれますので、学園だよりの一つの楽しみとしてご覧ください。(葛西記)

# 生協では2009年度の 新入生支援スタッフを募集しています

弘前大学生協は毎年新入生の大学生活のスタートを支援する活動を行っていますが、その中心となる学生アドバイザーを現在募集しています。学生アドバイザーの活動は11月の推薦試験の時期から開始され、内容は合格者や保護者の方に自分の経験を生かした新生活準備のアドバイスをしていただくことです。

2008年度は、約70名の学生アドバイザーの参加で1,315名の新入生にスムーズな大学生活スタートの支援ができました。また、活動したスタッフ自身がコミュニケーション力の向上など、いろいろなスキルを磨く機会となり成長する場となっています。

学生アドバイザーの詳しい仕事の内容や申込み方法は生協ホームページの「2009年度大学生活アドバイザー募集要項」をご覧ください。ぜひ多くの学生の参加をお待ちしています。



【2008年度大学生活アドバイザー】



【新入生サポートセンター】

## 生協食堂の 安全・安心 の取組について

生協食堂は中国産餃子の殺虫剤検出以来、使用食材の安全性を最優先課題として取り組んでいます。その重点政策は下記のとおりです。

- ① 中国製加工調理済み食材の取扱中止
- ② 大学生協輸入食材取扱基準の設置と基準に適合した食材使用
- ③ 国の検疫基準、トレーサビリティ、生協添加物基準を満たす
- ④ 組合員へ使用食材情報を公開

また、食堂では3月に安全衛生面の管理強化を目的として、厨房施設の改修をし、弁当・パン工房を独立させました。この結果、調理の行程でも一段と安全な商品提供ができるようになっていきます。生協は今後も組合員が安心して食事が摂れるよう努力をしていきますので、更なるご利用をお願いいたします。



●大部屋だった食堂厨房を、洗浄、調理、弁当工房を壁で区切り、より埃などをシャットアウトしました。



●焼きたてパン工房も綺麗に刷新しました。





## 弘前大学 学園だより Vol.159

2008年6月発行

学園だよりに関するご意見がございましたら、  
下記のアドレスまでお寄せ願います。  
e-mail: jm31113@cc.hirosaki-u.ac.jp  
弘前大学学務部学生課



### 国立大学法人 弘前大学 「学園だより」編集委員会

#### 委員長

山本秀樹(教育・学生委員会)

#### 委員

福田健太郎(人文学部)

葛西敦子(教育学部)

松谷秀哉(医学研究科)

扇野綾子(保健学研究科)

小松尚夫(理工学研究科)

比留間潔(農学生命科学部)

三浦信義(学生課)

佐々木忠(学生課)

印刷：ワタナベサービス株式会社